

『きみはリッチ?』—この本で伝えたいこと—

ある独身女性の話から…

都会ぐらしにあこがれて、家財道具をそろえるのにクレジットカードを使い始めました。19万円ほどの給料から月3万円の支払いはとくに無理はありませんでしたが、素敵な家具に囲まれると部屋のほかの部分^{すてき}が気になり、社会人2年目に引っ越すことにしました。そのときの引っ越し代と敷金^{しききん}はカードのキャッシングで50万円引き出して支払いしました。毎月の支払いも増え、家賃^{やちん}も上がり負担を感じていたころ、「インターネットセキュリティ管理業務⁷」の資格取得^{しゅとく}の講座（50万円）を友人に勧誘され、ローンを組んで受け始めました。ところが講座を修了し資格を取得したのですが、仕事はなく、返済も家賃^{やちん}を含め月15万になっていきました。給料では返済できず、テレビCMで見た大手の消費者金融会社²から借り入れし、やがて別の消費者金融会社からも借りるようになっていきました。…………

(梅沢広昭著『借金ブラックホール』同時代社刊より)

この本で伝えたいこと

きみは「カードを見せたりサインで何でも買うのがカッコイイ!」と思いますか。「重たい厚い財布^{さいふ}にお金をジャラジャラさせながらもち歩くのはやめたい!」と思いますか?

カードは何でも買えるふしぎな“ドラえもののポケット”みたいですが、あとから「代金を支払ってください」と確実に請求書^{せいきゅうしょ}がまわってきます。カードを使うということは、個人の信用によってショッピングをすること、本当は一時的に“借金”することを意味します。もしも、見通しがあまく、返済計画がひとたび狂うと、上に紹介した女性のような悲劇^{ひげき}の始まりが、あなた自身にも起こりえます。

この女性のように返済のために新たな借金を繰り返すようになった債務者^{さいむしゃ}（借り手）は多重債務者と呼ばれ、大きな社会問題となっています。この本は、多重債務者の問題を理解して、あなたがそうならないための、もしもそうなってしまったときの解決法を自ら切り拓くためのマニュアルです。

多重債務者にならないためには、まず、自分の収入、預貯金^{よちよきん}などの資産、家族構成、生活実態など、さまざまな要素をよく考え、無理のない消費生活をおくることが重要です。そのうえで、いつか、あなたがカードを作ろうと思ったとき、消費者金融会社やクレジット会社などからお金を借りようと思ったとき、その前にもう一度この本を開いてみて下さい。きっと役に立つと思います。

⁷ このような資格は実在しません。あたかも新しい国家資格のようにみせかけて、高額の講座学習料を要求する悪質商法（「資格商法」と呼ばれます）があとを絶ちません。

² 消費者のニーズに応じて金銭を直接貸し付けることを消費者金融と呼び、銀行、クレジット会社、消費者金融会社などが消費者向けにさまざまなローンを提供しています。